2024年度

ＪｓＢ　総　合　科　目

注　意

1．試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2．解答用紙はすべて**黒鉛筆または黒のシャープペンシル**で記入することになっています。鉛筆またはシャープペンシル・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。（万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。）
3．この問題冊子は**8頁**までとなっています。試験開始後，ただちに頁数を確認してください。
4．解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので，あなたの受験票の番号であるかどうかを確認してください。
5．解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し，その他の部分には何も書いてはいけません。
6．解答用紙を折り曲げたり，破ったり，傷つけたりしないように注意してください。
7．この問題冊子とメモ用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読み，下記の問１～問９に答えなさい。解答は解答用紙の所定欄に記入しなさい。

第一次世界大戦勃発の大きな原因が，帝国主義国家間の植民地争奪戦・資源確保競争・市場の排他的拡大競争にあったのは，よく知られていることだろう。また，1929年の世界大恐慌の発生と，その混乱から自国を守ろうとする各国の保護主義により形成されたブロック経済が，世界経済の分断を招き，結果として第二次世界大戦勃発の大きな原因となったこともまた，周知の事実だろう。

ＷＴＯ（世界貿易機関）のホームページでは，「平和と安全への願望」が自由な世界貿易の構築の必要を強く促したのであって，それは，「第二次世界大戦への直接的反応であり，それが二度と繰り返されないことへの願望」だったこと，そしてついに1948年に発効となったＧＡＴＴ①を誕生させたのだということが，うたわれている。ＧＡＴＴは主に物品の自由貿易に関わる枠組みであったが，1995年にはそれに加えてさらにサービスと（　　②　　）の貿易をも対象とするＷＴＯへと発展的に継承されることとなった。(注１)

ところで，ＷＴＯは，自由な世界貿易がただ世界に平和をもたらす③ばかりでなく，世界に経済成長の恩恵をもたらすことを強調する。ＷＴＯによれば，自由貿易の恩恵は，第二次世界大戦後の世界貿易と経済成長の経験という証拠によっても裏づけられている。すなわち，第二次世界大戦後，工業製品の関税は急降下し，現在では工業国の関税率の平均は５％未満となっているのである。戦後25年間，貿易障壁が軽減されたおかげで世界の経済成長率④は年平均約５％となり，世界貿易量はさらに速く増大し，この間平均約８％の成長を遂げた，と記される。ＷＴＯは「こうしたデータは，自由貿易と経済成長との間に統計的に明確な関係があることを示している」と主張し，その理論的根拠として「経済学者の間で最も広く受け入れられている理論のひとつ」である19世紀英国経済学者リカードの「比較優位」論の参照を求めている。(注２)

リカードは，各国が最も効率的な産業に特化すれば，すべての国が貿易の利益を享受できると説き⑤，自由貿易による富の増大を明らかにすることで，近代経済のグローバリゼーションを理論面で支えた，とＷＴＯは強調するのである。そして，第二次世界大戦が終結してすでに80年近い年月が経ったいまでは，世界中のほぼすべての人が，グローバルな貿易と金融の制度によって結びついていると言っても間違いないだろう。すなわち，「私たちが何かを購入したり働いたり，貯蓄するときにはかならず，その行動が何千キロも離れた場所⑥の何十億もの人たちに影響をおよぼす。同様に，地球の反対側の人たちが日々

下す平凡な決断は，本人の知らないうちに私たちに影響を与えている(注3)」。

こうしたなか，『日本経済新聞』は，20世紀に近代のグローバリゼーションの恩恵を最も享受してきた米国の21世紀のオハイオ州の風景には，リカード理論が抱える２つの矛盾が映し出されていると報告する(注4)。その１つは，グローバリゼーションに対する米国内世論の不満である。経済を成長させるはずの自由貿易が，かえって国内製造業に従事する人々から職を奪い，そうした人々は製造業より賃金が低いサービス業への転職を余儀なくされているというのだ。こうなると，民主主義のもとでは，反グローバリゼーションを唱える政治家が選挙で当選しやすくなる土台ができることになる。さらにそこから，目下米国で進む第２の矛盾，すなわち保護主義の波が進行することになるとされる⑦。つまり，20世紀に経済のグローバリゼーションによって最も恩恵を受けたはずの米国が，21世紀になるとグローバリゼーションにやすやすと背を向ける事態が生じているというわけである。

こうした反グローバリゼーションの流れに対して，ＷＴＯばかりではなく，ＩＭＦ（国際通貨基金）も強い警告を発する。すなわち，ＩＭＦ専務理事の2023年４月のスピーチは，「私たちの調査によると，貿易の分断がもたらす長期的なコストは，世界のＧＤＰの７％に達する可能性があり，これはドイツと日本の年間生産量の合計にほぼ相当する。技術的なデカップリング（分離・切り離し）が加われば，ＧＤＰの12％に達する国もあるだろう(注5)」と世界に警告しているのである。まさに，開放された自由貿易から，保護主義・分断へと世界が反転することで，リカードが教えた世界の富の増大への道⑧が逆転してしまうかもしれないというのだ。

いま，21世紀の私たちの世界は，ウクライナの戦争の勃発などにより，国際ルールや国際秩序が激しく揺るがされている。こうしたなかで，改めて国際間の「自由な貿易」の原点を考え直してみるべきであろう。経済学の父アダム・スミスは，その最初の著書『道徳感情論』で，人は富や名誉を求める競争において，いかなる努力も惜しむべきではないが，しかし唯一「フェアプレー」だけは守らないと，誰の共感も得られず非難される，と説いた。フェアプレーとは，まさにルールを守りながら公正に競争するということだ。この精神を忘れたとき，市場経済は容易に崩壊してしまうのである。国際間では少なくともフェアプレーは守ろうという精神を土台にして，私たちは粘り強く国際ルールの作成のために国際的に協力し合わなくてはならない。どの領域ならルール作りができるか，あるいは最低でも作っておかなくてはならないか，こうしたことについて辛抱強く，しかしできるだけ迅速に，国際間の協調の道を探ることが必要だ。例えば，グローバルな金融システムの安定性の維持，地球温暖化対策や，人工知能（ＡＩ）をはじめとする新しい技術の管理な

どは，どの国であっても避けられない課題であるはずだからこそ，抜け駆けの許されないフェアプレーが求められる領域となるだろう。

リカード理論の矛盾と言われるものを解きほぐしながら，開放的な自由貿易のこれからの⑨道を豊かなものにすることができるかどうか，それは，世界においてルールに基づくフェアプレーをこれからの人々がきちんと構築できるかどうかにかかっている，と言っていいのではないだろうか。

（注１）ＷＴＯ，‘History of the multilateral trading system’を参照

（注２）ＷＴＯ，‘The case for open trade’を参照

（注３）マシュー・Ｃ・クレイマン＆マイケル・ベティス著『貿易戦争は階級闘争である』小坂恵理訳，みすず書房，2021年，８ページ

（注４）『日本経済新聞』2023年３月27日朝刊１面

（注５）クリスタリナ・ゲオルギエヴァ，‘The Path to Growth: Three Priorities for Action’，2023年４月６日，を参照

問１　下線部①について，ＧＡＴＴという略称の正式名称を日本語で書きなさい。また，その目的は何であったかを簡潔に書きなさい。

問２　（　②　）に入る適切な語句を書きなさい。

問３　下線部③について，なぜ自由貿易は世界に平和をもたらす傾向があると考えられるのか，150字程度で論じなさい。

問４　下線部④に関して，表１のように各国の国内総生産を比較するために名目国内総生産を人口で割り，人口一人当たり名目国内総生産（以下一人当たりＧＤＰ，単位：ドル）とし，米ドル建て表示とした。

米ドル建て表示とは，各国通貨建ての金額を米ドル建てで表示することである。日本であれば，日本円をドルに変換して表示する。例えば日本のＧＤＰが500兆円で１ドル＝100円であれば，500兆円/100円＝５　となり，５兆ドルとなる。

表１　人口一人当たりの名目国内総生産

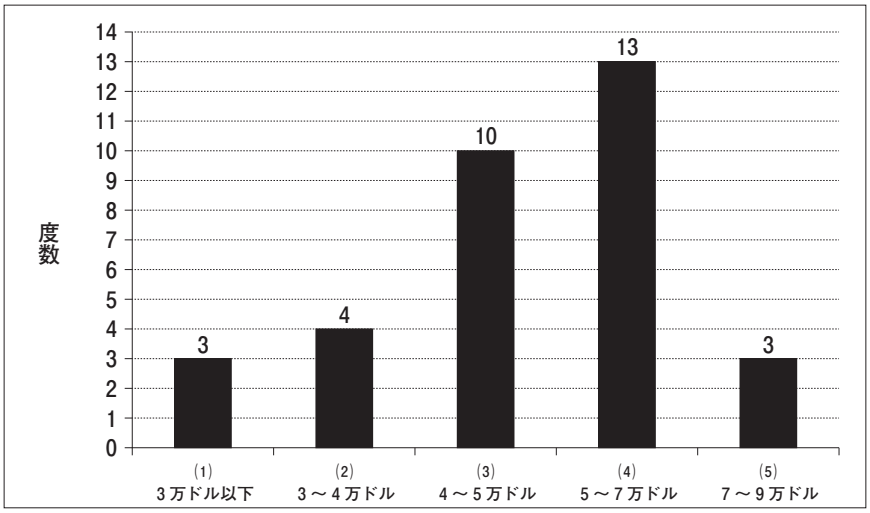
	2020	2021	2022
日本	41867	42895	46768
アメリカ	63481	70181	76360
ＥＵ	48270	51340	56568

出所：OECD.Stat より引用

一人当たりＧＤＰを（１）～（５）の５つのグループに分けて度数分布表を作成し，図

１のヒストグラムにまとめた。このヒストグラムに関して，最頻値と中央値はそれぞれ(１)～(５)のいずれに含まれるか，その理由を踏まえて100字以内で説明しなさい。

図１　一人当たりＧＤＰに関するヒストグラム



問５　下線部⑤について，Ｘ国，Ｙ国は，それぞれ１単位の商品Ａおよび商品Ｂを生産するのに（つまり，現在は商品Ａ，商品Ｂはともに２単位ずつ，世界に供給されている），表２の人数を必要とする。このとき，下記の説明文の空所〈イ〉・〈ロ〉に入る適切な記号を書きなさい。

〈説明文〉

Ｘ国は，商品＜　イ　＞の生産に比較優位をもち，Ｙ国は，商品＜　ロ　＞に比較優位をもつ。

表２　比較優位の表

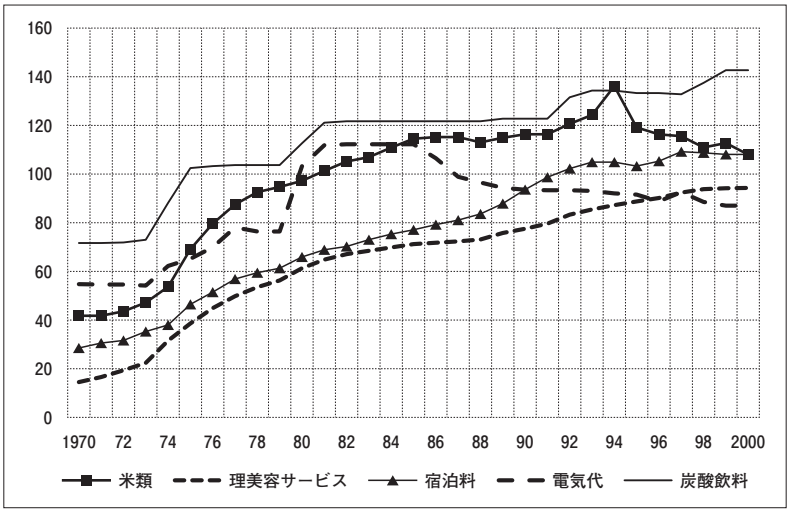
	商品Ａ	商品Ｂ
Ｘ国	80人	90人
Ｙ国	120人	100人

問６　下線部⑥に関連して，1970年～2000年にかけての各種価格を図２にまとめた。その水準は2020年を100とし，各種系列を図３の散布図で分析することにした。縦軸は理美容サービス，宿泊料，電気代，炭酸飲料のいずれかであり，横軸は米類である。これらを踏まえ，次の問ⅰ・ⅱに答えなさい。

ⅰ．図３のグラフＡ～Ｄの各矢印が示すデータは何年のデータと考えられるか。図２から読み取り，答えなさい。

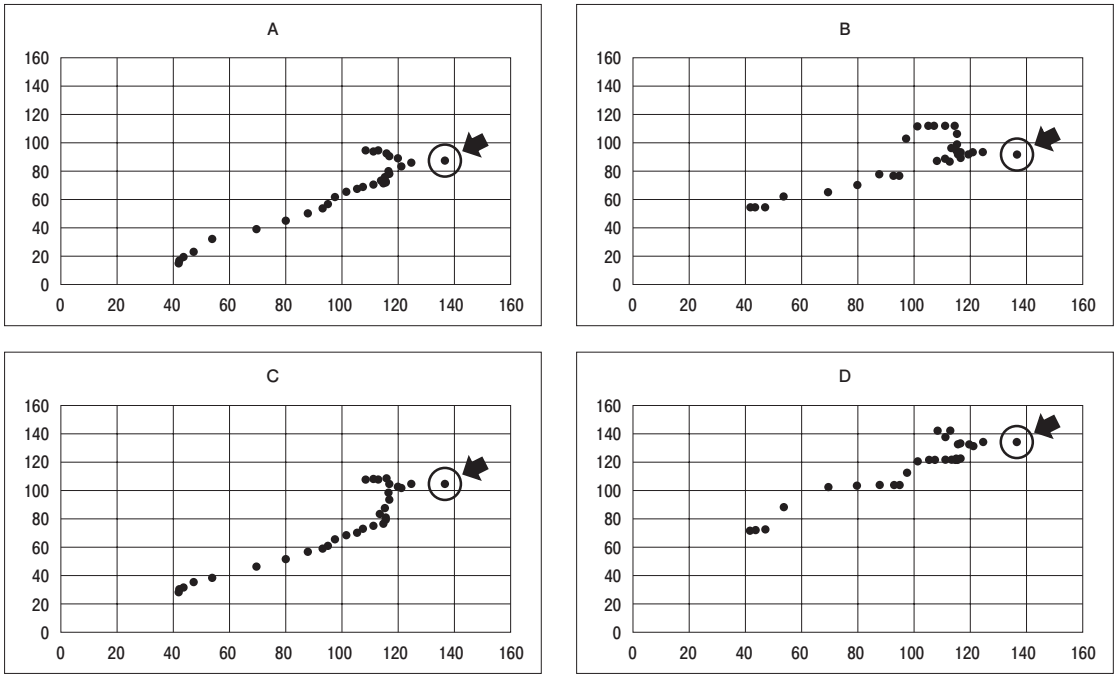
ⅱ．図３のグラフＡの縦軸の品目は何か，答えなさい。

図２　各種価格の推移（2020年＝100とした指数）



出所：総務省統計局「消費者物価指数」より作成

図３　各種品目（縦軸）と米類（横軸）の散布図



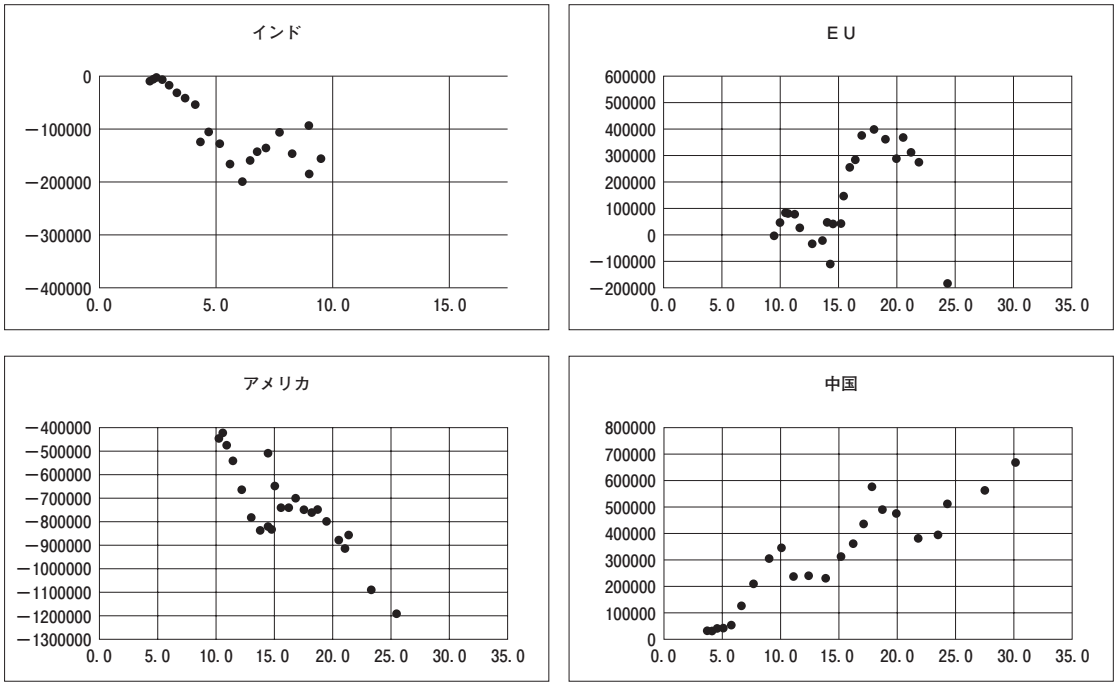
問７　下線部⑦について，一般に保護貿易とはどのような政策をさすのか，100字程度で説明しなさい。

問８　下線部⑧に関して，４つの国と地域で，ＧＤＰと貿易収支の関係を図４の散布図にまとめた。縦軸は貿易収支（単位：100万米ドル），横軸はＧＤＰ（単位：兆米ドル）である。なお，インドを除く３地域の横幅は同じであるが，インドは単位が小さいため，横幅の縮尺を17.5と，他の地域の２分の１に縮小している。縦軸は100000の倍数になるように表示している。これらを踏まえ，次の問ⅰ・ⅱに答えなさい。

ⅰ．図４について，インド，アメリカ，ＥＵ，中国のうち，貿易収支とＧＤＰの系列間で相関係数を高い順に並べた場合，２番目に高いのはどこになるか，答えなさい。

ⅱ．日本の経常収支，貿易収支，サービス収支は表３の通りであった。2000年以来，日本の経常収支にはある構造的変化が生じてきた。この変化について「経常収支」，「貿易収支」，「サービス収支」，「所得収支」の用語を用い，100字程度で論じなさい。

図４　ＧＤＰと財の貿易収支に関する散布図（2000～2022年）



※インドのデータは2000～2020年まで

出所：OECD.Stat より引用

表３　経常収支及びその内訳の推移（単位：100万米ドル）

	経常収支		
		貿易収支	サービス収支
2000	130742	117411	−48641
2005	170185	105776	−37325
2010	221621	107782	−30052
2015	136722	−7605	−16021
2020	148605	25072	−34747
2022	85196	−120300	−41981

出所：OECD.Stat より引用

問９　下線部⑨について，次の問ⅰ・ⅱに答えなさい。

ⅰ．今日においてリカード理論が抱える矛盾とは何か，本文を読んで簡潔に書きなさい。

ⅱ．どうすればこれからの「開放的な自由貿易」を豊かなものとすることができるとあなたは考えるか，本文を参考にしながら，「国際分業」「米中関係」の２つの語句を必ず用いて，150字程度で論じなさい（それぞれの語句の使用部分を下線＿＿を引いて示すこと）。